

水俣市袋地区に出現する共栄合板KKの建設現場

公害追放—住民の手で

水俣市袋地区に自衛組織

環境をよくする会を結成

苦い経験生かし監視

独自に企業と防止協定も

水俣市を隔る水俣市袋地区住民がチッソなどの合弁共栄合板KK(本社水俣市 製紙部長、資本金二億円)が進出するのをきつかけにこのほど「袋地区環境をよくする会」という住民組織をつくった。全住民から選ばれた代表が委員になり環境の点検、監視などをして関係当局や企業への働きかけ、住民への連絡、広報などをしていこうとする特色のある公害対策住民組織。

共栄合板はチッソ、日商岩井旭夕ウ、東南硝子四社の出資で袋地区に合板工場を建設中。十一月半ばからは外材が袋港に運び込まれる見込み。袋地区唯一の大工場

で、チッソ水俣工場の合理化に伴って余剰人口取扱のために生れた。

しかし湯沢 茂道などを含む袋地区には水俣病で痛めつけられた地域。このあやまちを二度と繰り返さないようにとの地域住民の声があり、合板工場からの公害についても目を光らせようとの結成にこぎつけた。会長は農業関係一畑さん(二)、委員は各地区代表で湯沢さん、北沢一人、南沢一人、茂

近く新和町でも

農業公害などの解決に

汚水のたれ流しや埋戻しなどの公害は、住民が互いに気をつければ防げるものだ」と、元袋町新和町に、住民代表による公害対策協議会が近く発足、公害にきびしい監視の目を光らせていくことになった。今月末か来月早女にも初会合を開き、実働にはいる。

同町には大型農業を日ごす養豚、肉牛などの用場があるほか、たばこ、ミカン、養蚕など狭い耕地に各種の農業がひしめきあっている。不知火海を東にひかえ、漁業盛況も多い。これまでも、農園の防除液がミカンにかかって困るとか、豚や牛のシ尿が川に流れ、悪臭を放つたり、農作業のピニールが海に流れ、スクリューに巻きついたなどの苦情が多かった。町でも当事者同士の話し合いで解決する以外に手がなく、困惑していた。

そこで町では、行政指導といううえからの対策ではなく、住民の立場からの公害追放のひとつの方として注目される」と話している。

立場からの公害追放のあり方としては、農協、漁協の役員、たばこ、養蚕、果樹、畜産農家の代表、議事から議長と経済委員共二人の合計十二人による協議会をスタートさせ、当事者同士による話し合いでの解決を目指すことになった。

協議会は、ことあるごとに会合を開き、農作業の農薬散布の時期、理の仕方などについて話し合い、手算指図を伴うものなどについて、は町長に諮問、解決することにしていく。メンバーは町長委嘱とし、今月末か来月早女にも初会合を開き、会長と委員を互選、動き出すことになった。

農公協では「県内の市町村でも主として海上汚染防止のための公害対策協議会は、牛深市、三角町で生まれているが、住民参加の下からの盛り上がりが見られるのは、公害追放のひとつの方として注目される」と話している。

道二人、神川一人の計四人、市と合板工場との間では公害防止協定が結ばれる約束はなっていないが、今では近くに住民として独自の協定を結びたい意向で、被害が出れば操業短縮、もし設備が改修出来なければ操業停止を要求出来るような協定までもつていきたいと言っている。

なお、市議会の公害対策特別委員会でも、袋の工場のほか、県外同種工場などの視察をし、市でも住民の声を盛り込んだ公害防止協定を結ぶ計画をすすめている。